

各 位

令和8年2月10日

トモニホールディングスグループの令和8年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和8年3月期第3四半期（令和7年4月1日～令和7年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：有木 浩）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和8年3月期第3四半期（令和7年4月1日～令和7年12月31日）連結業績

当第3四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息の増加により資金運用収益が増加したこと、役務取引等収益が増加したこと、株式等売却益の増加によりその他経常収益が増加したこと等により、前年同期比8,402百万円増加して77,484百万円となりました。経常費用は、外貨調達に伴う外国為替売買損の減少によりその他業務費用が減少したものの、預金利息の増加により資金調達費用が増加したことに加え、第2四半期までに取引先企業の事業再生支援及び会社更生法適用申請に伴い貸倒引当金の大幅な計上を行ったことを主要因とする与信関連費用の増加によりその他経常費用が増加したこと等により、前年同期比10,428百万円増加して59,156百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比2,026百万円減少して18,327百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比2,521百万円減少して11,681百万円となりました。

当第3四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比1,830億円増加して5兆2,176億円となり、純資産残高は、前年度末比92億円増加して2,932億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,685億円増加して4兆7,128億円、貸出金残高は、前年度末比1,383億円増加して3兆8,281億円、有価証券残高は、前年度末比315億円増加して7,667億円となりました。

		令和8年3月期 第3四半期	前年同期比
損益	経常収益	77,484百万円	8,402百万円
	経常費用	59,156百万円	10,428百万円
	経常利益	18,327百万円	△2,026百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	11,681百万円	△2,521百万円
		令和8年3月期 第3四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	52,176億円	1,830億円
	純資産	2,932億円	92億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	47,128億円	1,685億円
	貸出金	38,281億円	1,383億円
	有価証券	7,667億円	315億円
	自己資本比率（国内基準）	9.42%	△0.04%

(2) 令和8年3月期通期（令和7年4月1日～令和8年3月31日）連結業績予想

令和7年11月11日に公表しております令和8年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

＜ご参考＞

（単位：百万円）

令和8年3月期通期業績予想	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
	26,050	16,500

2. 徳島大正銀行

(1) 令和8年3月期第3四半期（令和7年4月1日～令和7年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び預け金利息が増加したこと等により、前年同期比1,737百万円増加して39,774百万円となりました。

また、上記要因に加え、外貨調達に伴う外貨為替売買損が減少したこと等により、コア業務粗利益は、前年同期比2,765百万円増加して27,316百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比2,723百万円増加して13,325百万円となりました。

経常利益は、債券リバランスによる国債等債券売却損2,548百万円の計上や、取引先企業の会社更生法適用申請に伴う追加引当2,743百万円の計上で与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比1,620百万円減少して9,131百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,221百万円減少して6,016百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比869億円増加して2兆5,497億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,073億円増加して2兆7,217億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比437億円増加して2兆763億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.61%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比1,465百万円増加して35,034百万円、総与信に占める割合は1.66%となりました。

		令和8年3月期 第3四半期	前年同期比
損益	経常収益	39,774百万円	1,737百万円
	コア業務粗利益	27,316百万円	2,765百万円
	コア業務純益	13,325百万円	2,723百万円
	経常利益	9,131百万円	△1,620百万円
	四半期純利益	6,016百万円	△1,221百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	7,891百万円	1,388百万円
	与信関連費用	3,143百万円	2,539百万円
		令和8年3月期 第3四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	27,806億円	905億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	25,497億円	869億円
	総預り資産	27,217億円	1,073億円
	貸出金	20,763億円	437億円
	有価証券	3,901億円	18億円
	自己資本比率（国内基準）	8.61%	△0.01%
不良債権	金融再生法開示債権額	35,034百万円	1,465百万円
	総与信に占める割合	1.66%	0.04%

3. 香川銀行

(1) 令和8年3月期第3四半期（令和7年4月1日～令和7年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、役務取引等収益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比5,995百万円増加して32,751百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外貨調達に伴う外貨為替売買損が減少したこと等により、前年同期比1,073百万円増加して21,331百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比884百万円増加して10,018百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比453百万円減少して8,846百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,259百万円減少して5,518百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比815億円増加して2兆1,702億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比925億円増加して2兆3,275億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比951億円増加して1兆7,606億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は10.02%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比7,616百万円増加して39,840百万円、総与信に占める割合は2.20%となりました。

		令和8年3月期	
		第3四半期	前年同期比
損益	経常収益	32,751百万円	5,995百万円
	コア業務粗利益	21,331百万円	1,073百万円
	コア業務純益	10,018百万円	884百万円
	経常利益	8,846百万円	△453百万円
	四半期純利益	5,518百万円	△1,259百万円
	本業利益（外貨調達コスト控除後）	6,776百万円	756百万円
	与信関連費用	4,382百万円	4,774百万円
		令和8年3月期	
		第3四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	24,252億円	908億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	21,702億円	815億円
	総預り資産	23,275億円	925億円
	貸出金	17,606億円	951億円
	有価証券	3,749億円	294億円
	自己資本比率（国内基準）	10.02%	△0.05%
不良債権	金融再生法開示債権額	39,840百万円	7,616百万円
	総与信に占める割合	2.20%	0.32%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL : 087-812-0102
TEL : 088-656-1118
TEL : 087-812-5132